

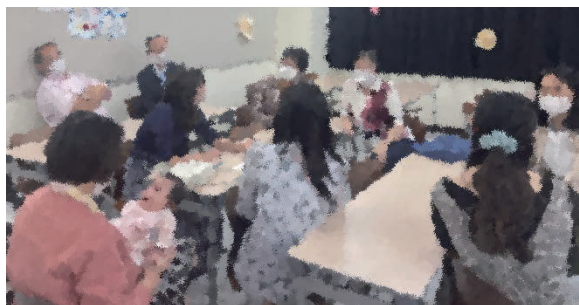
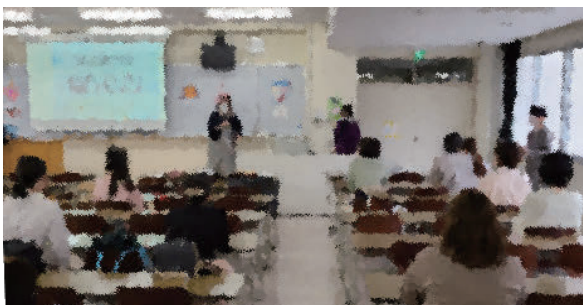
【看護学科同窓会「緑看会」】

今留忍初代看護学部長・健康科学部長の発案により、2022（令和4）年度に看護学科同窓会「緑看会」を発足させました。本学看護学科は、附属病院を持たないこと、看護師以外にも保健師または助産師の国家試験受験資格が取得できることなどから就職先が多様で、同じ職場に同窓生がいないこともしばしばです。そのため、「緑看会」では、卒業年度や就職先の異なる同窓生と交流することによって、仕事やライフイベントについて相談したり、自分の成長を実感したりできるようになることを意図しています。卒業生の中から会長1名、看護師課程、保健師課程、助産師課程各1名の副会長を選出し、運営役の看護学科教員がサポートしています。

総会・交流会は、第1回を2022（令和4）年10月2日（土）13：30から、第2回を2023年10月21日（土）14：00から、狭山キャンパス第10講義室で、対面とwebの併用により開催しました。参加者は、第1回は卒業生11名と教員14名の25名、第2回は卒業生13名と教員14名の計27名で、赤ちゃんと一緒に参加してくれた卒業生もいました。総会では、緑看会の趣旨や運営方法の説明、役員承認を行いました。交流会では、参加者全員で近況報告を行った後、少人数のグループに分かれて、仕事の内容や職場の様子、結婚や出産などについて自由に語り合いました。卒業年度や就業先が違っても、東京家政大学で看護を学んだ仲間であることを実感し、絆を深めることができました。

【交流会参加者の声】

- ・同期や先生と久しぶりに会えて楽しかった。明日からまた仕事頑張ろうと思った。
- ・普段交流できない先輩方や先生方のお話をきくことができ良かった。
- ・同期以外の卒業生と関わる機会ができ、様々な職場の状況について知ることができた。
- ・病院やそこにくる患者の特徴や、人間関係など深い話ができよかった。
- ・参加者の話を聞いて、刺激を受けた。看護職としてまた頑張ります！
- ・やりがいや悩みを共有できて、今後への励みになりました。



第1回総会・交流会



第2回総会・交流会

<緑看会役員からのメッセージ>



10周年に寄せて

緑看会会長 金子 優(秀和総合病院 2階西病棟)

東京家政大学の1期生として大学を卒業し6年が経ちました。大学卒業後は大学病院に就職して4年間循環器内科に勤務し、現在は総合病院の循環器内科、消化器内科の病棟にて勤務しています。今年、心臓リハビリテーション指導士の資格を取得したため、今後は患者さんの指導にも力を入れていきたいと考えています。

私の中での大学4年間はたくさんの出会いがあり、多くの経験ができた4年間でした。1年生では初めての実習で自分の看護に対する考えの浅さを感じ、まだまだ何もできないと実感し、2年生では自分自身が入院を経験し、医療には多くの人に関わっているということを実感しました。3年生では実習で多くの出会いがあり、どんな看護師になりたいか考え続ける日々でした。4年生では進路を看護師一本にすることに決めたため、この1年間を無駄にしないようにと海外も含めボランティアに行ったり、やりたいことを全部やったと思う1年間でした。この4年間のすべてが人生の糧になっていると感じています。看護のことをほとんど知らずに入学した私が看護師として社会に出てプロとして働く覚悟を決めるためには4年間という時間が必要でしたし、東京家政大学だったからやりたいことを明確にして卒業できたと思っています。

人との出会いを大切に、いろいろなことにチャレンジして時には悩みながら、人に相談しながらどんな人になりたいか、社会に出て何をしたいか探して行ってほしいと思います。



門を叩けば、開かれる

看護師課程副会長 小島 望(榊原記念病院 入退院支援センター)

このたびは、看護学科創立10周年おめでとうございます。

私にとって本学科は看護師への道を夢ではなく目標に変えてくれた場所です。

私は小さい頃から看護師になることが夢でしたが、持病によりその夢を一度諦めたことがあります。十代から二十代に移るときには私は学校で学ぶことも、社会に出て働くこともできない状態で過ごしていました。しかし、ふとした瞬間からもう一度挑戦してみようとチャンスを掴むことができ、もう一度看護師になることを志しました。

私は本学科の「女性の自主・自律」「子ども学部との併設」「新設で創り上げていく」という点に魅力を感じ、入学を希望しました。

入学してからは、楽しみたい、学びたいという気持ちを大切に、友人と共に思う存分時間を使うことができ、先生方にも真摯に向き合ってくださいました。学生として過ごす中で看護師になることを夢みる“いつか”が具体的な目標へと変わっていきました。

卒業して早5年が経ち、大変ながらも看護師として働き続けることができていることに幸せを感じています。

あの時、東京家政大学看護学科の門を叩いてよかったと思います。またそれが卒業した今も居場所として存在していることが大変有難いです。支えて頂いた方々への感謝を胸に、これからは自分が誰かの健康と暮らしに寄り添っていくことができるよう日々模索していきたいと思っています。

看護学科が益々発展していくことを心よりお祈り申し上げます。



看護学科開設10周年を記念して

保健師課程副会長 山口 朋佳(入間市役所 健康推進部 地域保健課)

この度は、看護学科開設10周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。私は平成26年4月に看護学科1期生として入学しました。そこから10年の月日が経ったことに感慨深い気持ちです。入学当初は在校生が少なく自然があふれる校舎でしたが、先日大学の講座で久しぶりに校舎を訪れました。今では多くの学生が通っており、とても賑わっている校舎は私にとって新鮮でした。私たちは1期生のため先輩がいない中での学生生活で、苦勞することも多かったです。その反面、自分たちで築き上げていこうとする力が芽生え、新しいことに挑戦しようというチャレンジ精神が身についたと思います。

卒業後は保健師として、現在の職場に入職しました。看護学科1期生で行政の保健師として就職した同級生がおらず、就職した当初は不安でした。そんな時に、家族や大学時代の友人、職場の同僚などに支えられたことで、現在まで仕事を続けられたと思っています。今では私のことを知って保健師を目指そうとする後輩がいることを聞いて、嬉しく思っています。今後も看護学科の学生の皆様が看護師や保健師、助産師として活躍されていくことを期待しています。

未筆ながら、看護学科と学生の皆様の一層のご発展とご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



10周年によせて

助産師課程副会長 正慶 帆香(市立青梅総合医療センター 産科病棟)

東京家政大学看護学科開設10周年おめでとうございます。

東京家政大学看護学科教職員の皆様をはじめ関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。学生時代を振り返ると学んだことはたくさんありますが、その中でも「その人らしさ」を大切に看護するということが今でも大切にしています。分娩介助を実施する病院実習を行なった際、当初は産婦さんに関わる時間よりも教材と今の状態を見比べて正常なのか、異常なのかを考える時間が多くなっていました。しかし、妊娠や出産は誰一人として同じ過程をたどる方はいません。妊娠週数や分娩の経過など基準となる指標はありますが、そこに当てはめるだけでなく、その方自身を実際に見て、触れて、本当に必要としている支援は何かを考え実践する必要があることを身をもって学びました。

助産師として働き始めて早くも5年目となります。日々さまざまな妊産さんや褥婦さんと関わる中で、もっと良い関わり方ができたのではないかと自問自答することもあります。 「あなたがいたから頑張れた。」と声をかけていただくこともあり、やりがいを感じています。

東京家政大学で学んだ「その人らしさ」を大切に、これからも精進していきたいと思えます。

最後になりますが、東京家政大学看護学科教職員の皆様をはじめ関係者の皆様、同窓生の皆様のご健勝と増々のご活躍を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

【在校生たちの活躍】

< 狭山緑苑祭 >

狭山キャンパスで10月に開催される学園祭「狭山緑苑祭」には、在校生たちが積極的に参加しています。看護学科の学生有志が企画・運営する「学科企画」では、血圧や骨密度等の測定、臓器パズル、新生児人形の抱っこ体験等、看護学科らしさを活かした内容を実施しており、幅広い年代の方々に好評を博しています。



狭山緑苑祭 開催状況

回	開催年度	狭山緑苑祭		学科企画		看護学科有志団体による企画
		開催日時	テーマ	テーマ	内容	
第1回	2014 (平成26)	10月26日(日) 13:00~16:30	Memory ~新しい家政の 1ページ~	白衣の天使に なってみよう	①ナースになろう!(ナース服体験) ②衛生的な手洗いを学ぼう! ③赤ちゃんのお世話を体験してみよう! ④スタンプラリー	●TRIPLES(看護学部仲よし3人組のダンス)
第2回	2015 (平成27)	10月25日(日) 10:00~16:30	大和撫子 ~華笑み薫る家政 のおもてなし~	看護体験	①白衣の天使になろう ②応急手当を体験しよう ③測定してみよう ④フィジコと聴診器 ⑤シニア&プレマ体験 ⑥スタンプラリー	●RNA(看護学部学生有志のダンス)
第3回	2016 (平成28)	10月23日(日) 10:00~17:30	Kaseiの輝き ~無限世界への 大冒険~	看護体験	①高齢者体験 ②ナース体験をしよう!!(ナース服着用体験) ③手をきれいに洗おう! ④フィジコさんの心臓の音を聞いてみよう! ⑤地震に備えよう!(簡易トイレを作る体験、非常食のプレゼント) ⑥スタンプラリー	●看護ボランティア同好会「トリアージ ワークショップ きずの手当~あなたはこんな時どうする?~」 ●救急看護法・災害看護検討会「臨地実習における 安全管理~災害発生時の対応~」 ●RN.A(看護学部学生有志のダンス) ●エベレストコーヒーPR隊(ハンドドリップコーヒー の販売)
第4回	2017 (平成29)	10月29日(土) 10:00~15:30	豪華絢爛 ~さやまつり~	君の体は。 ~見てみよう 健康状態~	①身長・体重・BMI・視力検査 ②血圧測定 ③骨密度測定 ④血糖値測定 ⑤ストレスチェック ⑥肺活量測定 ⑦スタンプラリー	●看護ボランティア同好会「かせい森のおうち お食事処」 ●エベレストコーヒーPR隊
第5回	2018 (平成30)	10月28日(日) 10:00~16:30	花より家政	The Body ~人間の体のしくみを のぞいてみよう~	①スタンプラリー ②体の脈に触れてみよう ③対光反射を体験 ④BMI診断 ⑤臓器パズル ⑥手浴体験 ⑦血圧測定体験	●看護ボランティア同好会「看護ボランティア 食堂」
第6回	2019 (平成31・令和元)	10月27日(日) 10:00~16:00	とうめい	Let's THINK! ~健康の ためにできること~	①臓器パズル ②手洗い体験	●看護ボランティアサークル(模擬店)
第7回	2020 (令和2)	10月25日(日) 10:00~16:00 (オンライン)	Power of smile ~笑顔の力~	不参加	不参加	不参加
第8回	2021 (令和3)	10月24日(日) 10:00~16:00 (オンライン)	コネクト ~繋がる優しさ、 照らす心~	その手洗い、アルコール 消毒、正しい方法で できていますか?	手洗い、アルコール消毒の方法の解説	●看護ボランティアサークル(ストレス対処 法)
第9回	2022 (令和4)	10月23日(日) 10:00~16:00	心のままに 全力で!	ようこそ東京家政大学 健康科学部看護学科へ! ~いろいろな看護を 体験してみよう!~	①スタンプラリー ②健康チェック(骨密度測定、SpO ₂ 測定、血圧測定) ③聴診器を使った音の体験 ④臓器パズル ⑤新生児人形の抱っこ体験	●看護ボランティアサークル「知ろうALS! 知ろう学生ヘルパー」
第10回	2023 (令和5)	10月22日(日) 10:00~16:00	10th Anniversary!! ~これからも、 あなたと共に~	DOKI DOKI 看護体験	①新生児人形の抱っこ体験 ②骨密度測定 ③血圧測定、聴診器体験 ④臓器パズル	●看護ボランティアサークル「看護の防災教室・ フードプロジェクト」「アボカ・カフェ」

< ボランティア活動 >

● 看護ボランティアサークル

「看護ボランティアサークル」は、学科開設年度に「看護ボランティア同好会」として発足し、板橋キャンパスにある本学附属女子高等学校での救命講習、狭山キャンパスにある「かせい森のおうち」(保育所)での健康教育等を行ってきました。また、狭山市老人福祉センター不老荘で「看護カフェ ナースのたまご」を定期的で開催し、レクリエーションやハンドマッサージ、血圧測定を行っています。さらに、宮城県南三陸町で東日本大震災の被災者を訪問したり健康カフェを開いたりしています。狭山緑苑祭にも積極的に参加し、模擬店、活動内容と学びの発表等を行っています。



南三陸町に関する活動資金として、2017、2019、2023(平成29、令和元、5)年度には本学後援会の「ドリームプラン奨学金」を獲得しています。また、活動の意義が評価され、2016、2017(平成28、29)年度の2年連続で、学校法人渡辺学園善行賞を授与されました。

● オープンキャンパス

オープンキャンパスには、学科開設当初から学生ボランティアが多数参加しています。「キャンパスツアー」や「在校生との交流」を担当し、本学看護学科の魅力や学生生活について丁寧に説明する在校生たちは、本学の生活信条「愛情・勤勉・聡明」を実践しており、来校者から高く評価されています。

● 学外でのボランティア活動

看護学科4年生の金子優さんは、看護小規模多機能型居宅介護「坂町ミモザの家」でボランティア活動を継続し、国際保健活動にも従事しました。ボランティアに取り組む姿勢と行動力に対し、2017（平成29）年度に学校法人渡辺学園善行賞が授与されました。

● その他

狭山キャンパス内にある「放課後等デイサービス つくし」や本学近隣市町村のイベントなどに学生ボランティアとして参加しています。

<人命救助>

在校生たちは、看護学科で学んだ救急看護法を実践して人命救助を行っています。2019（令和元）年度には、看護学科4年生の関田麻乃さんが、駅のホームで負傷した方に傷の処置と救急の手配を行いました。また、2023（令和5）年度には、看護学科4年生の土方佑夏さんが、飲食店で心肺停止状態に陥った方を周囲の方々とともに救護し、東京消防庁から感謝状を送られました。両名は、他人に対する極めて親切な行為で特に表彰に値する学生として、学園貢献賞（苫米地善行賞）を受賞しました。

<スポーツ>

看護学科の澤山あおいさんは世界ジュニアパワーリフティング選手権に出場し、2017（平成29）年度には銅メダル、2018（平成30）年度には金銀銅の3つのメダルを獲得しました。出場にあたっては、本学後援会から「ドリームプラン奨学金」のご支援をいただきました。功績が認められ、2017（平成29）年度には学園貢献賞（学長賞）を授与されました。

【後援会「ドリームプラン奨学金」】

本学には、大学院・大学・短大に在学する全学生の保護者と教職員によって構成される「後援会」があります。「ドリームプラン奨学金」とは、学生生活を更に豊かなものにするため、本学在学中の学生で個人的かつ社会的に有意義でオリジナリティあふれる計画をもって個人またはグループに対し、その計画の実現を後援会が助成することを目的として給付する奨学金です。

【学校法人渡辺学園貢献賞／学園善行賞】

学校法人渡辺学園貢献賞とは、他人に対する極めて親切な行為で特に表彰に値する学生、本学園の広報に特に貢献し新聞等マスコミにおいて記事が掲載されるなど表彰に値すると考えられる学生、学生の指導等に功績があり学園の名誉を高めたと認められる教職員等に対して、学校法人渡辺学園が授与する賞です。ほめて育てる教育の推進の一環として2016（平成28）年度に創設されました。

学校法人渡辺学園善行賞は、他人のためになることを密かに行っている人を発掘し発表することを目的とする賞で、2000（平成12）年に苫米地元理事長の寄付によって創設されました。2018（平成30）年度からは「苫米地善行賞」として学園貢献賞の中で表彰されています。

<在校生からのメッセージ>

● 東京家政大学に入学して



看護学科 1年 北野 和

幼い頃から医療職に就くことを志し、この春、看護学科に入学しました。教員の方とのコミュニケーションをしっかりと取ることが出来る大学に進学したかったため、オープンキャンパスで在校生の方と教員の方が話している場面を見てこの大学に決めました。入学してからも、多くの学生がいるなか、一人一人とコミュニケーションを取ってくださっていることを実感しています。

大学に入学し、学びたかったことを学べるのがとても楽しく、充実した学校生活を送ることができています。授業外では緑苑祭実行委員会に所属して学園祭運営に携わりました。リハビリテーション学科と合同の授業でも交友関係が広がりましたが、緑苑祭実行委員会に入り、学年学科を超えたつながりを持つことが出来ました。委員会では様々な学生企画の管理や食品衛生について担当し、委員で協力しながら緑苑祭を終えられたことはとても貴重な経験となりました。

看護学科で勉強するなかで、学びに対して楽しさを感じられたことが印象的で新鮮な一年でした。来年からはさらに専門的な内容を学ぶことになりますが、今年度学んだことを活かし、楽しむことを忘れずに、多くのことを吸収していきたいです。

● 看護学科での学び



看護学科 2年 後藤 真咲

入学してから私は、学びたかったことを学べる楽しさを日々実感しながら過ごしています。長らく自分が目指していた“助産師になる”という夢の実現が、努力するほど近づいてくることが嬉しい毎日です。自分のできないことに気づき落ち込むこともあります。それでも一生懸命に取り組んだり、努力した分成長を実感することができます。

本学に入学して以降、人生ではじめて学ぶことの楽しさを知りました。「自分がやりたいことの実現のために、自分の意思で選んだ本学の看護学科で学んでいる」という事実が、学ぶ喜びや充実している感覚に繋がっているのだと思います。人生のうちで自分の好きなことを学べる嬉しさに気づけたことが、本学に入学して良かったと心から思える理由の一つです。

本学看護学科の魅力は、それぞれの人生を最期のときまで「その人らしく生きる」を大切にしたい看護を学べるころだと思っています。入学以前の私は、看護とは入院している人のお世話や注射をすることである、と考えていました。本学で様々な分野を学ぶ中で、「よりその人らしく生きるためにはどんなケアが必要か」という視点で看護を展開する能力が備わったと思います。

これから長期にわたる実習や国試など多くの壁がありますが、私には本学で学ぶべきこと、学びたいことがまだまだ沢山あります。夢実現のため着実に歩みを進めているこの瞬間の喜びを忘れず、学ぶ環境のある今に感謝しながら日々精進して参ります。

● 看護学科に入学して



看護学科 3 年 棚澤 ひとみ

私はオープンキャンパスに参加した際に、東京家政大学の看護学科にしかない魅力や特徴を多く感じました。中でも、保健師・助産師コースがあることは、私が東京家政大学看護学科への入学を決めた理由のひとつでもあります。保健師や助産師を目指せることは、自分の将来の選択肢が広がるのみならず、幅広い分野と知識から、より多くの人々の健康を促進できることにつながるのではないかと考えています。

看護についての学びを深めている過程で、やりがいを感じることも多いですが、時に不安や悩みを感じることもあります。特に、実習では自分の知識や技術が不十分であるために、分からないことやできないことが多く、悩み、苦しむこともありました。しかし、先生方が知識や技術の指導はもちろんのこと、精神面のサポートもしてくださったため、苦悩を乗り越え、看護についてより深い学びを得ることができました。このように、熱心なご指導と心強いサポートをしてくださる先生方がいることも、東京家政大学看護学科の魅力であると感じています。

私は、看護を目指す者としてまだまだ未熟ではありますが、将来は患者さんやご家族の身体と心に常に寄り添い、その人らしさを支える看護が行えるように、今後もより一層、勉学に努めていきたいです。

● 看護学科での学び



看護学科 4 年 松村 朱玲

私が本学を志望した理由は、高校生から目指していた助産師の資格を 4 年間で取得できる点、専門的な知識・技術・態度を学べる施設や設備が備わっている点、自宅から通うことができる点、そして大学最寄りの稲荷山公園駅や大学構内の四季折々を感じられる環境に魅力を感じたためです。

看護学科では、日々の授業やグループワーク、演習、そしてその学びを活かすことのできる実習があります。実習は、看護職を目指す者としての知識・技術・態度をさらに養う機会です。また、患者さん1人ひとりの目標を達成あるいは目標に近付ける支援ができたときや患者さんの笑顔を拝見したり、感謝の言葉を頂戴したときは看護のやりがいに繋がりました。さらに、看護ボランティアサークルや緑苑祭では、他大学や他学科では機会の少ない地域の人々との交流が多いことも看護学科ならではの魅力です。

夢であった助産師課程に進み助産学を学ぶことができたこと、共に看護職を志す素敵な仲間と切磋琢磨しながら4年間を過ごすことができたこと、患者さんをはじめ、先生方や家族、友人など周囲の方々に支えられていることに気付け、感謝の気持ちをもつことの大切さを学ぶなど、一人の人間としても大きく成長できたことは私の財産です。これからも本学看護学科で学んだことや周囲の人々への感謝を忘れず、看護を必要としている人に個別性に応じた看護を提供できるよう自己研鑽を継続していきます。